

研究・調査報告書

報告書番号	担当
236	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Excess injury mortality among smokers: a neglected tobacco hazard. 喫煙者における事故による過剰死亡：無視されたたばこの害	
執筆者	
Wen CP, Tsai SP, Cheng TY, Chan HT, Chung WS, Chen CJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Tob Control. 2005;14 Suppl 1:i28-32.	
キーワード	
事故、交通事故、喫煙	
要 旨	
<p>目的： 喫煙者、非喫煙者における事故による死亡リスクを評価し、台湾での事故による喫煙の死亡負荷を定量化するために研究を実施した。</p> <p>方法： 台湾のコホートにおいて、喫煙者(過去喫煙者)の事故による死亡を非喫煙者のそれと比較した。64,319人の男性が12-18年追跡された。特定要因による事故死亡の相対危険、95%信頼区間がコックス比例ハザードモデルにより、年齢とアルコール飲用の影響を調整し算出された。日常の喫煙量を用いた量反応関係の有無を評価するために、事故死亡の相対危険も合わせて算出された。</p> <p>結果： アルコール摂取の影響を調整したもとのリスク上昇は事故全体で69%、交通事故のみで88%、交通事故以外で48%であり、喫煙者のリスクは非喫煙者よりも有意に高かった。転倒、火災、仕事に関連した事故を含めた事故(交通事故を除く)においても死亡は増加しており、その増加は量反応関係にあった。</p> <p>結論： 本研究により致死的な事故と喫煙との有意な関連が示された。この関連は禁煙運動を推奨する根拠となるものである。</p>	